

●シリーズ●わが町の文化財へ87

世羅町重要文化財 石造層塔

昭和44年11月20日指定

青近の毘沙門堂の脇には、花崗岩製の三重及び五重の層塔が2基あります。

五重塔は高さ2.23m、三重塔は高さ2.06mで両塔とも相輪の一部を欠失しています。町内には残欠を含めて6ヶ所に合計6基の層塔が発見されており、いずれも材質は花崗岩です。そのうちの一基には塔身部と一層目をくり抜き円筒形の奉籠孔ほうろうこうがついています。形式からみていずれも南北朝時代から室町時代前期にかけての造立と推定されています。

一方、本塔は曾我兄弟の墓との伝承があります。恐らく大田庄の青近地頭が造立した層塔と考えられます。塔の脇には毘沙門天が祀られ、塔の下方の屋敷には「土居丸」の屋号がついていて、この地に支配者の居館があったことを物語っています。

同地には、層塔の他に南北朝時代から室町時代までの宝篋印塔や五輪塔などが多数存在しています。



▲層塔（2基）

▼三重層塔の塔身の種子



●シリーズ●わが町の文化財へ88

世羅町重要文化財 廃金福寺古石塔群

こんぶく

昭和63年2月9日指定

津久志地区の黒淵の山林中に廃金福寺跡があり、現高96cmのほうきょういんとう宝篋印塔1基と50数基の五輪塔を有する中世の墓地があります。ともに大田庄時代の黒淵地頭三善氏関係のものとして推測されています。

宝篋印塔は花崗岩製で、室町時代中期のもの、また、五輪塔は鎌倉時代から室町時代にかけてのものとして推定されています。五輪塔の石材は大半が花崗岩製ですが、一部に結晶石（コゴメ石）の灰岩製（コゴメ石）のものも見受けられます。多数の五輪塔が一箇所に存在する場所としては、郡内でも有数規模のものであります。

